

# 人 権 教 育 だ よ り

栃木県教育委員会事務局教育政策課人権教育室



今年度、関係課所等で実施された  
人権教育に関する取組を紹介  
します。

## ◆教育政策課の取組◆

### ◇性の多様性について考える研修会

県内全域の学校から人権教育担当をはじめ児童・生徒指導担当者、教育相談担当者、養護教諭等が参加しました。多様な性の在り方や自己決定権についての理解を深めることができました。

○日時 令和 6 (2024) 年 6 月 7 日 (金) 13 : 20 ~ 16 : 30

○講演

・講師 宇都宮大学共同教育学部  
准教授 良 香織 氏

・演題 「『多様な性』と学校一取り組みのこれまでとこれから」

○事例紹介

・講師 倉敷市教育委員会人権教育推進室  
室長 松尾 真治 氏

### ◇新任人権教育主任研修会

県内の学校で今年度はじめて人権教育主任に任命された教員を対象に、「新任人権教育主任研修会」を開催しました。小学校 119 名、中学校 42 名、高等学校 14 名、特別支援学校 3 名の計 178 名の新任人権教育主任と行政職員 4 名が参加し、計画的な人権教育の推進や人権教育の指導内容及び方法の改善・充実等に向けて、人権教育の指導方法や主任としての役割などについて理解を深めることができました。

○日時 令和 6 (2024) 年 7 月 23 日 (火) 13 : 20 ~ 16 : 30

○講話 宇都宮大学共同教育学部  
教授 溜池 善裕 氏

○演題 「個が学ぶ権利を自覚し共同的な学びの高まりが個の学びを支える学習法」  
——一人ひとりを伸びて行く子どもに育てるために、教師は何をすれば良いのか——

○協議 「人権教育とは？人権教育主任の仕事とは？～自分の言葉で語ってみよう～」



研修の様子

## ◇性暴力について考える研修会

生活文化スポーツ部人権男女共同参画課との共催でオンラインにより開催しました。

性暴力についての正しい認識や未然防止策、児童生徒が被害に遭った場合の適切な対応について理解を深めることができました。

○日時 令和6(2024)年8月6日(火) 14:00～16:00(オンライン開催)

○講話 上智大学総合人間科学部心理学科

准教授 齋藤 梓 氏

○演題 「子どもに対する性暴力～教職員はどのように対応すべきなのか～」

## ◇デートDVを考える研修会

とちぎ男女共同参画センターとの共催でオンラインにより開催しました。

デートDVに関する意識や被害者の支援、加害者を生み出さないための未然防止等について理解を深めることができました。

○日時 令和6(2024)年8月8日(木) 13:15～15:30(オンライン開催)

○講話 立命館大学・大学院 非常勤講師、DV加害者プログラムNOVO運営者

伊田 広行 氏

○演題 「個を大切にする」関係の築き方～デートDVを防ぐために支援者ができること～

## ◇児童虐待に対応するための研修会

県内の幼稚園、保育所及び認定こども園、学校の管理職、教育相談担当者、養護教諭等を対象に「児童虐待に対応するための研修会」を開催しました。幼稚園、保育所及び認定こども園 215名、小学校 90名、中学校 30名、高等学校 9名、特別支援学校 20名、行政 16名、計 380名が参加し、児童虐待をはじめ子どもの人権を取り巻く諸課題について理解を深め、子どもの人権に即した支援や連携の在り方について考えることができました。

参加者から事前にいただいた質問等にも分かり易く回答いただきました。

○日時 令和6(2024)年8月30日(金) 13:20～16:30(オンライン開催)

○講話 大阪市立大空小学校

初代校長 木村 泰子 氏

○演題 「子どもの事実から『人権』を視点に学校づくりを問い直す」

○インタビューフォーラム

栃木県こども政策課担当者、県北児童相談所職員、県立高等学校養護教諭の3名の回答者より、それぞれの立場から児童虐待等子どもの人権を取り巻く課題に向き合うための具体的な支援の方法や連携の在り方についてお話を伺いました。

## ◇人権教育担当者スキルアップ研修

県総合教育センターにおいて、人権教育担当者スキルアップ研修を開催しました。小・中・高等学校職員 3 名、市町教育委員会職員 15 名、県教育委員会職員 17 名の計 35 名が参加し、参加体験型の手法を中心に、より実践的な知識・技能を学びました。

○日時 令和 6 (2024) 年 9 月 26 日 (木) 13 : 30 ~ 16 : 30

○講話 国立女性教育会館

理事長 萩原 なつ子 氏

○演題 「ジェンダー平等と多様性の視点から考える教育」



研修の様子



ワークショップの様子

## ◇令和 6 (2024) 年度人権に関する作品コンクール表彰式

12 月 4 日、県公館を会場に、「人権に関する作品コンクール表彰式」を開催しました。表彰式では、栃木県教育委員会阿久澤真理教育長から最優秀賞を受賞した 18 名への賞状及び副賞の授与を行いました。また、授与に続き、代表者による作文朗読やイラストの主旨発表を行いました。作文・イラストの入賞作品は、「人権に関する文集『あすへのびる』－第 44 集－」に掲載し、2 月下旬を目途に学校等へ配布しました。ぜひ御活用ください。



表彰式の様子

## ◇人権教育研究推進事業（文部科学省委託事業）

### (1) 人権教育総合推進地域事業

学校、家庭、地域社会が一体となった人権教育の総合的な研究を実施し、人権教育の一層の充実を図りました。

○指 定期 間：令和 5 (2023) 年度、令和 6 (2024) 年度

○指 定 地 域：さくら市喜連川中学校区

○研究テーマ：自他共に認め合い自己肯定感を高める人権教育の推進

～学校・家庭・地域の連携を通して～

○成 果：9 年間を見据えた小中連携の取組を生かした人権教育の推進や、各校の取組を家庭や地域へ発信する取組、さらには教職員の人権意識の高揚に向けた取組をと  
おして、児童生徒の自己肯定感の高まりや人権課題の知的理解の深まりなどの  
成果が得られました。

○講 評：魅力ある新しい企画の立案と既存の仕組に人権教育の視点を取り入れることで、  
重層的な推進体制を生み出すことにつながりました。さらに、人権教育を「横串」  
にした連携の創出により、人権意識の高揚が図られました。



朝のあいさつ活動



喜連川中学校「クラス人権宣言」



人権講演会

### (2) 人権教育研究指定校事業

人権意識を培うための学校教育の在り方について、幅広い観点から実践的な研究を実施しました。

○指 定期 間：令和 6 (2024) 年度

○指 定 校：那須町立高久小学校

○研究テーマ：自分も相手も大切にする児童の育成

～互いに認め合い、高め合える人間関係づくり・授業づくりを通して～

○成 果：外部講師を招聘して教職員研修を行ったり、児童と保護者が一緒に学ぶ「親子  
人権教室」を実施したりしながら、人権教育の推進を図りました。「教職員の  
人権意識の高揚」、「児童の自尊感情の高まり」、そして「授業で実践する人  
権教育の推進（直接的指導・間接的指導）」などの成果が得られました。



人権教育だより



12 月 21 日（土）に実施した親子人権教室の様子  
茨城県ユニセフ協会の方を講師にお招きし、子  
どもの人権について講話を聞きました。

## ◇人権教育研究学校指定事業（県立矢板東高等学校附属中学校）

学校教育における人権教育の改善・充実を図るため、県立矢板東高等学校附属中学校を今年度から2年間、研究学校に指定し、人権教育の実践的研究を行っています。以下がその取組になります。

### 1 研究テーマ

多様性を受け入れ、よりよい社会参加を目指す人権教育

### 2 主な取組

#### (1)授業づくり

- ①指導案検討会の開催
- ②校内授業公開・授業検討会の実施

#### (2)学習内容及び方法の改善・充実

- ①人権講話「SNSの使い方と人権教育についての理解」
- ②人権講話「世界の子どもたちや子どもの権利条約について」
- ③人権の木作成（ステキさん発表）
- ④福祉委員会による人権コーナーの充実
- ⑤人権問題に関する書籍の充実及び図書委員によるポップの充実
- ⑥福祉委員会による手話講義

#### (3)指導者の人権意識の向上

- ①人権講話「人権教育についての理解」
- ②人権講話「生命（いのち）の安全教育について」
- ③人権教育研究指定学校の公開授業への参加

### 3 成果

道徳教育及び学級活動の授業における直接的指導に関する指導計画表を作成し、教職員間で共有することができた。学習内容の改善・充実に向けては、人権に関する内容の講話を生徒対象に実施し、学習のふりかえりの工夫改善等に努めながら人権意識の高揚を図りました。

## ◆義務教育課の取組◆

## ◇内地留学生（宇都宮大学共同教育学部）による実践研究発表会

栃木県総合教育センターが主催する令和6（2024）年度栃木県教育研究発表大会（人権教育部会）において、令和5（2023）年度に派遣された内地留学生による発表を行いました。

- 1 発表者：鹿沼市立粕尾小学校 斉藤 彩水 教諭
- 2 テーマ：小学校における「性別役割分担意識」を題材とした教職員研修や授業実践
- 3 主な取組：アンコンシャス・バイアスに着目した教職員研修と授業実践
- 4 成果と課題： 教職員研修では、人権教育推進の手引や児童生徒用学習資料「人権の窓」を活用した研修をとおして、人権教育やアンコンシャス・バイアスについての理解を深めることができました。授業実践では、参加体験型学習をとおして児童が自身のアンコンシャス・バイアスに気付き、主体的に取り組む様子が見られました。

## ◆高校教育課の取組◆

### ◇研究指定校の取組（小山高等学校）

学校教育における人権教育の改善・充実を図るため、県立小山高等学校を令和 5（2023）年度、令和 6（2024）年度の 2 年間、研究学校に指定し、人権教育の実践的研究を行いました。以下が令和 6（2024）年度の取組になります。

#### 1 研究テーマ

自律心を高め、他者への配慮ができる生徒の育成

#### 2 主な取組

- (1) 人権に係る現職教育
- (2) 人権教育講演会の開催  
○全学年対象に、北京パラリンピック日本代表・加治佐博昭氏、伴走者・豊島聡氏をお招きして「信頼でつなぐゴールへの道-ブラインドランナーと伴走者のキズナ-」をテーマとした講演会を開催
- (3) 公開授業の実施〔令和 6（2024）年 12 月 23 日（月）〕  
○教科・単元  
・国語科（古典探究） 源氏物語 北山の垣間見  
・地理歴史科（歴史総合） 科学で見る現代社会  
・公民科（公共） 基本的人権の尊重 平等・自由・義務  
・英語科（英語コミュニケーションⅠ） Chapter 6 The Voice of Children
- (4) 先進校視察・情報交換（千葉県・長野県）
- (5) 「じんけん通信」の発行
- (6) 人権に関するアンケートによる実態把握

#### 3 成果と課題

人権に関するアンケートからは、人権意識の高揚により、自分の発言・行動が相手の人権尊重につながると感じている生徒の割合が高いことが分かりました。

人権教育講演会の生徒の感想から、偏見、思い込みが人権問題につながるものの気づきや自分自身を見つめ直すなど、人権への意識が高まった様子が見られました。

#### 4 講評

生徒の人権に関する関心や意欲が高まったことにより、男女共同参画や女性活躍推進について学び、発信する会議である「G 7 レガシーとちぎ未来会議」に参加する生徒の育成や、県教育委員会が作成した「人権に関する作文動画」へ意欲的に取り組む生徒の育成が図られました。公開研究授業では、教科横断的な取組の推進が図られ、「互いに人権を尊重し合う」という人権尊重の理念が生徒にも教職員にも浸透している様子が窺えました。

## ◆特別支援教育課の取組◆

### ◇交流及び共同学習の推進

県立特別支援学校（16 校）では、「特別支援学校の近隣の学校との交流活動（学校間交流）」や「児童生徒の居住する地域の学校との交流活動（居住地校交流）」を計画的かつ組織的に行うことにより、障害のある幼児児童生徒の社会性や豊かな人間性の涵養に努めるとともに、障害のない幼児児童生徒との相互理解の促進を図っています。

直接的な交流の実施に向けた事前・事後学習においては、Zoom の使用やビデオレターなど、ICT 機器を効果的に活用しながら間接的な交流も実施することで、交流及び共同学習をより充実させることができました。このような体験活動によって、特別支援学校や地域の学校等の幼児児童生徒の豊かな人間性を育むことができました。

### ◇共生社会をテーマとした生徒対象講話の実施

県立高等学校を対象として、「誰もが相互に人格と個性を尊重し支え合い、人々の多様な在り方を相互に認め合う共生社会」をテーマとした講話を実施しました。

令和 6（2024）年度は、6 校 7 課程（宇都宮高等学校、上三川高等学校、学悠館高等学校、鹿沼商工高等学校（全・定）、栃木商業高等学校、栃木農業高等学校）で講話を行いました。多様性の理解に関すること、自己理解・他者理解に関すること、障害者理解に関することなどをテーマとした講話やワークショップをとおして、共生社会への理解促進を図ることができました。

## ◆生涯学習課の取組◆

### ◇人権教育指導者一般研修

生涯学習課では、様々な人権問題について正しい理解と認識を深め、地域社会において人権教育を推進していく指導者の育成を目的として、教育事務所単位の県内7か所（河内・上都賀・芳賀・下都賀・塩谷南那須・那須・安足地区）で人権教育指導者一般研修を開催しています。

### 安足地区人権教育指導者一般研修「さわやか人権フォーラム」

令和6（2024）年6月28日（金）、安足地区「さわやか人権フォーラム」を開催しました。国のLGBT理解増進法の施行や県のとちぎパートナーシップ宣誓制度の導入等、大きな動きを踏まえ、今年度は「性の多様性」をテーマに設定しました。

研修では、セクシュアリティ教育が専門の埼玉大学の渡辺大輔氏に御講話いただきました。先生は、研修や講演、執筆活動を行っており、その豊富な事例を基にした講話は、「性」の要素等の基礎知識はもとより、多様性を尊重した子どもたちへの支援や配慮の仕方について学ぶよい機会になりました。



### ◆研修内容◆

#### 1 講話 演題「性の多様性をめぐる教育の課題」

講師 埼玉大学 ダイバーシティ推進センター 准教授 渡辺 大輔 氏

#### 2 対象者 P T A役員・学校教育関係職員、社会教育関係団体役員、市行政関係者等

#### 3 参加者の声

- 最近、メディアでも見聞きしていたので、知識はあるつもりでしたが、渡辺先生のお話を聞いて、目からウロコなことが多過ぎて、まだまだ無知であると思いました。性の多様性について、子どものために最善となる策を子どもとともに考えていくことが必要だと知りました。他の人ともっと色々話をして、共有していきたいです。
- 性の多様性を当たり前とした社会をつくることで、性的マイノリティの方々が特殊な存在ではなくなり、楽に過ごしていけると思いました。今まで自覚していなかったジェンダーバイアスやアンコンシャスバイアス等で無意識に人を傷付けてしまうことがないように意識して生活していきたいです。
- 無意識に男らしさ、女らしさを決めつけていた自分に気付き、はっとさせられました。子どもにも、「らしさ」を強要せず、ありのままいてよいことを伝えていきたいです。また、何でも話してもらえようように日頃からの信頼関係づくりをしていきたいです。
- 性別について自分はあまり疑問をもたなかったのですが、苦しんでいる人がいるということを改めて確認することができました。普通という言葉はいろいろな思いがあるということを意識することができた会でした。
- 保護者として、子どもの差別意識を育てないようにしたいです。また、自分以外を異質であるという考え方にならず、多様性を含めてみな個性があることに気付きました。そして、みな普通だというスマートな考え方ができる大人になってもらえるよう、私たちが導いていきたいです。

## ◆その他◆

### ヒューマンフェスタとちぎ 2024

令和6(2024)年11月16日、とちぎ福祉プラザにて「ヒューマンフェスタ とちぎ 2024」を開催しました。

今年度は『ネットを介した人権侵害の被害者・加害者にならないためにー今、私たちにできることは？ー』をテーマとした講演や、トークショーなどを実施しました。アンケート結果より参加者のみなさんが人権尊重の理念について理解を深められたことがうかがえました。

会場に来場されたみなさんには県立宇都宮青葉高等学園の生徒が心を込めて栽培した「人権の花」がプレゼントされました。「人権の花」には「人権が尊重された温かな雰囲気」がますます広がって欲しいとの願いが込められています。



令和6(2024)年度人権に関する作品コンクール 作品展示の様子



「人権の花」(パンジーやビオラ)



### 人権トピック

#### G7レガシーとちぎ未来会議

G7男女共同参画・女性活躍担当大臣会合を契機に、本県の未来を担う子どもたちを対象にした「G7レガシーとちぎ未来会議」が開催され、県内中学校・高等学校から全18グループ55名が参加しました。8月4日に栃木県庁で学習会が行われ、各グループが事前学習で気付いた身の回りの課題等について発表し、テーマ課題に関するそれぞれの行動目標を検討しました。そして、夏季休業中に行動目標を実践し、10月6日に栃木県議会議事堂にて開催されたG7レガシーとちぎ未来会議で、行動目標の実践結果や気付きの発表を行い、修了証が交付されました。

12月26日に県総合文化センターで開催された「輝くとちぎフォーラム」では、代表グループによる発表が行われました。